

イーストマンカラー
総天然色

トーホースコープ
TOHO 東宝 SCOPE
パースペクティブ立体音響

宇宙兵器総動員！地球軍対ミステリアン凄絶の一大攻防戦！

監督・本多猪四郎
特技監督・円谷英二



志藤 白河 土伊平佐
村田 川内 屋藤田原
喬進 由桃嘉久昭健
美子男哉彦二

村山三加大大今生中大佐中三小
上田藤川方山村原杉
巳利春八 壯千 秀義
樹助江哉郎廉児豊吉豊哲夫男

東宝株式会社製作・配給

地球防衛軍

製作：田中友幸 原作：丘見丈一郎 潤色：香山滋 脚本：木村武 撮影：小泉一 美術：安倍輝明 録音：宮崎正信 照明：岸田九一郎 音楽：伊福部昭

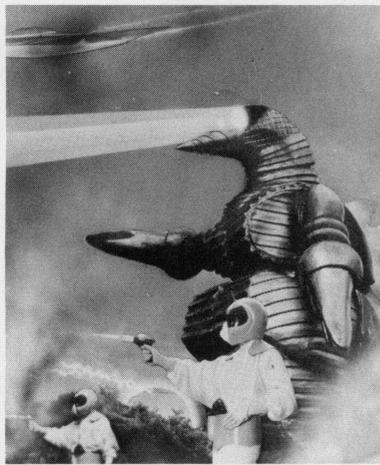
地球防衛軍

■ものがたり

静かな月の下、富士山ろくの湖のほとりでは、楽しそうに盆踊りがつづけられている。天文台に勤める亮一も楽しげに見ていたが、とつぜん、山火事がおきた。ふしぎなことに火の海に森が浮き、根元から火をふいていた。

調査団の訪れた部落は一面、どろがブクブクとあわを吹きあげ、しかもそのどろにガイガーカウンターが激しい反応をしめしていた。地面がムクムクと動いて、ぶ気味な怪物モゲラが頭をもたげたのだ。モゲラは発電所にあられ、たてものをたたきつぶし、街に向って進んできた。自衛隊も装甲車を先頭に銃をうつつが、モゲラの怪光線をあびて、一たまりもなく破かいされてしまう。

天文台の安達博士は、今から五千年前、原水爆によって自分の星ミステロイドをはめつさせたミステリアンが安住の地をもとめて、地球にやってきたのではないかと推理する。富士山ろくの湖水をへだてた山かげから、球型のドームがせり上って半球の形になると安達博士ら五人と交渉したいといってきた。五人が近づくと内部はすべて白色半透明で白い光が流れこんでいる。五人をむかえたミステリアンはこのドームを中心に半径三キロの土地を要求する。



ドームに対して自衛隊はロケット攻撃を加えるが、みどり色の怪光線によって戦車もロケット砲も炎につつまれてしまい、空とぶ円盤にやられてしまった。全世界の科学者の研究により、ミステリアンは熱に弱いということが分った。

地球軍が全知能をかたむけた航空艇アルファ号はドーム上空で電子砲をうちこんだ。パアツと紫紅色の炎がドームをつつんだが、三千度の高熱にもビクともしないのだ。ミステリアンはさらに半径百キロの土地を要求してきた。地球軍はミステリアンの怪光線をそのまま反射して送りかえすことができる新兵器マーカライトファープを完成した。

ドームから強烈な怪光線が光りはじめた時、マーカライトファープの白熱波がサツと流れくる。ドームは真っ赤にかわり、岩も土も、荒れくる高熱の粒子となって大空にまい上る。ミステリアンはその時、大スイッチを入れた。みるみるうちに湖水がさけて、トウトウトと水があふれ、すさまじい洪水となって街をひとのみにしてしまった。

果して地球の防衛はなるのだろうか……

●ミステリアン

今から五千年前、原水爆戦争によって自らの遊星ミステロイドを破滅して以来、宇宙のユタヤ人となって彷徨を続けて来た怪遊星人である。その科学は地球のそれに比して驚くべく進歩しているが、自らの遊星を失って冷却した宇宙に生活してきたため熱に対して弱い習性を持っている。職制的に三階級に分かれ、統領は赤い服、幹部が黄色い服、一般職員が青い服を着ている。

モゲラ

ミステリアンが地下にドームを構築するため使用した土壌掘さく機である。胸部から腹部にかけてはキヤタピラ状、口や手足はドリル状に造られて、土を掘り返しやすいうようになっている。ロボット戦車の役目も果し、両眼から殺人光線を発して地上軍に立ち向い、ゴジラに必敵するほどの猛威をもふるう。

■スタッフ

製作 田中 友幸
原作 丘見文二郎
脚色 香山 滋
監督 木村 武
撮影 本多猪四郎
美術 小泉 一
音楽 安倍 輝明
特技監督 伊福部 昭
円谷 英二

■キャスト

渥美 譲治……………佐原 健二
白石 亮一……………平田 昭彦
江津 子……………白川 由美
岩本 広子……………河内 桃子
安達 博士……………志村 喬
川波 博士……………村上 冬樹
幸田 博士……………中村 哲
森田 司令……………藤田 進
ミステリアン統領……………土屋 嘉男

(昭和三十三年十二月 封切)